ご　挨　拶

佐々木　亘（物理）

理学部に来てからもう15年近くになります。着任した時は，例の騒動が恰度始まった頃でした。大学とは教育と研究の場であると観念的に捉えておりましたが，中に入ってみると驚くことばかりでした。研究室の建設に着手するまでに１年余の空白がありましたが，その間に，ふだんは考えられない位多くの方々に接する機会が得られましたし，又東京大学という巨大な組織の深層を垣間見ることもできたと思っております。

紛争が鎮まってからは，幸に，超一流の先輩と同僚，又すぐれた学生に恵まれ，部外の方々をも捲きこんで，低温物理の分野で一仕事できたのは，まことに有難いことと感謝しております。

外国出張の折には，行く先々で大学や研究所のレベルをそれとはなしに気をつけて見て来ましたが，東京大学のすばらしい点は何と言っても学部大学院の学生の質と量です。この人たちの個性をのばし大輪の花を咲かせることこそ東大のスタッフに課せられた使命だと思います。

さて，早いもので私自身の“卒業”も目前に迫りました。15年間に得ることの多かったのに較べ，学部にも教室にもさしたるお役に立つことができなかった点，心苦しく思っております。学部の皆様のご健闘を祈って，ご挨拶に代えさせて頂きます。

佐　々　木　亘　教　授

小　林　俊　一（物理）

佐々木亘先生の定年退官に際して，永年お教えを受けたものの一人として心からこれまでの御功績をたたえ，御指導に感謝し，同時にこれからのますますの御活躍と御健勝をお祈り申しあげる。

佐々木先生は昭和22年に本学工学部を卒業され，以後21年間にわたって電気試験所（現在の電子技術総合研究所）に勤められ，昭和43年に本学理学部物理教室に移られた。電気試験所時代を含め今日まで，半導体から金属，液体ヘリウムまで，またバルクから薄膜，微粒子にいたる多様な系の，主として低温における電子物性の研究を続けられ，幾多の顕著な業績をあげてこられた。日本の半導体物理研究が現在の水準にまで到達し得たことに先生の力が大きく与かっているのは誰もが認める所である。また，大学院主任，教室主任，総長補佐など，行政面でも本学の運営に多くの貢献をなされた。

先生の御性格には温厚さと峻厳さの，一見相反する二つが同居していて，優しいけれども怖いというのがお教えを受けたわれわれの共通した感想ではないかと思う。強い正義感を持たれ，何事にもすじを通すことを重んじられるので，周囲の人々に頼りにされ，御指導をうけた人々の尊敬を集めてこられた。一方で，学生と夜を徹して飲み，スキーを楽しまれる気さくさも先生の大きな魅力の一つである。

御退官後の先生は東邦大学において教鞭をとられる。先生が教育と研究にますます御活躍され，いつまでもわれわれを御指導下さることを信じて疑わない。